

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格 と食行動における諸要因についての検討

～統計手法赤池情報量規準による分析～

An Investigation of Several Factors in Personality and Eating Behavior Influencing Clothing Behavior of Female College Students

～The analysis by the statistical method of Akaike's Information Criterion～

笹山 益子 堀川 諭* 青海 邦子
Masuko SASAYAMA Satoru HORIKAWA Kuniko SEIKAI

1 はじめに

被服行動を規定する要因を把握するためには、心理的側面からの検討がとりわけ重要であるという観点から、前回、Y G 性格検査を用いた心理尺度テストと被服行動調査を併せて実施したところ、Y G 性格特性と被服行動との間には多くの関連性が認められた。

さらに近年、若年層において摂食障害が問題となっており、肥満に対する強い恐れとやせ願望が目立っている¹⁾。女子高校生を対象とした「ダイエット調査」²⁾を見ても、やせ願望は86.4%と実に多い。そのやせたい理由は、「きれいになりたい」「服が似合うようになりたい」「スタイルがよくなりたい」となっている。体型としては、やせ傾向の身体の方が洋服を着こなしやすいことは事実であり、これは世界的に有名なデザイナー達の作品からも認められよう。

したがって、本稿は、食行動を調査するためのEAT (Eating Attitudes Test)による結果を加え、心理的および食行動の両面から被服行動の動向を把握するために、多角的な分析、検討を行い、興味ある結果を得たので報告する。

2 調査の概要と目的

2・1 調査の対象者

大学の服飾学科・生活文化学科・秘書学科の女子学生199名（有効数）

※大手前女子大学

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

2・2 調査時期

1991年5月20日～5月25日

2・3 調査方法

被服に対する意識と行動に関する調査では、質問紙を配布し、被験者に1部写真を提示しながら集合調査を行った。心理的スケールについては、Y G性格検査を質問紙法形式で集合調査を実施し、食行動調査では、E A T（Eating Attitudes Test）に身体イメージ（自分の体型をどのように自分自身が感じているか）を加えた質問紙による集合調査を同様に実施した。このようにして作成した設問項目³⁾のうち表1～表3に示す56項目（被服行動26項目、Y G性格特性12項目、食行動18項目であり、被服行動と食行動については、各設問項目のなかから任意に選択した）を解析の対象とした。

表1 被服行動

変数名 (略号)	設 問 項 目	カテゴリー区分
HQ02	人間は服装よりも自分自身が大切だから、着るものにこだわらない方が良いと思いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ03	あなたは他人と同じような服装をするのが嫌いなので、個性的な服を着るほうが良いと思いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ05	あなたは男性の目を意識して服を着ていると思いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ06	あなたは女性の目を意識して服を着ていると思いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ07	あなたは夏祭には浴衣（ゆかた）を着たいと思いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ08	あなたは服を購入する場合、素材が天然繊維の服（綿・麻・絹・毛）を主に選んでいると思いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ09	あなたは自分の服装に対して他人がどう思っているかを気にするほうですか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ10	あなたは服装は自己表現の有力な手段であると思いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ11	あなたは正月には着物を着たいと思いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ12	あなたはどちらかというと目立たない地味な服装が好きですか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ14	あなたは少し高価でもデザインと品質のよいものを選んでと思いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ16	あなたは服の枚数は比較的少なくとも上手に組合せて変化をつけたいと思いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ17	あなたは流行の最先端の服を着るのは恥ずかしいですか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

表1 被服行動

変数名 (略号)	設 問 事 項	カテゴリー区分
HQ18	あなたは今日はどんな服を着ようかと考えるのは楽しいですか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ19	あなたは外出する時に着る服がなくて外出がいやになることがありますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ20	あなたは流行に流されるのが嫌いで、はやりすたりのない服を選ぶほうですか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ21	あなたは新しい服を買うときには気に入ったらすぐに買いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ23	あなたは人の服装を見ていろいろと批判するほうですか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ25	あなたは流行を追うつもりはないのに、いつの間にか流行に乗せられていることがありますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ26	あなたは服装によって美しく変身するのが楽しみですか。	0 無回答 1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
HQ27	あなたは有名ブランドの服を着てみたいと思いますか。	1 そう思う 2 そう思わない 3 わからない
変数名 (略号)	設 問 事 項	カテゴリー区分
HQ30	あなたは成人式にはどのような服を着たいと思いますか。	1 振り袖 2 袴姿 3 ロングドレス 4 ドレッシーなワンピース 5 フォーマルなスーツ 6 その他
HQ31	あなたは卒業式にはどのような服を着たいと思いますか。	0 無回答 1 振り袖 2 袴姿 3 ロングドレス 4 ドレッシーなワンピース 5 フォーマルなスーツ 6 その他
HQ32	あなたは花嫁衣装にはどれを着たいと思いますか。	1 ウエディングドレス 2 白無垢（しろむく）に打掛け 3 1と2の両方 4 その他
HQ33	あなたはジーンズをはくのが好きですか。	1 好き 2 嫌い 3 わからない
HQ37	あなたが着てみたいと思うふり袖を、サンプル1～6の中から1つ選んで番号を（ ）の中に書いてください。	1 濃青緑地に花と唐子模様柄で大正ロマン風 2 赤地に黒と金のぼかし分けで花柄で古典的 3 緑色地に辻が花柄で現代的 4 桃色地に金糸の雲取り柄で古典的 5 紫地に青緑と黒のぼかし分けでモダンな花柄で現代的 6 黄土色と青地の裾濃きものに御所解文様で古典的

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

表2 YG性格特性尺度

変数名 (略号)	性格特性項目	カテゴリー区分
YG@D	抑うつ性	1 楽天的 2 普通 3 陰気
YG@C	回帰性傾向	1 冷静 2 普通 3 感情的
YG@I	劣等感の強いこと	1 自身家 2 普通 3 自身欠如
YG@N	神経質	1 神経質でない 2 普通 3 神経質
YG@O	客観的でないこと	1 客観的 2 普通 3 主観的
YG@Co	協調的でないこと	1 協調的 2 普通 3 非協調的
YG@Ag	愛想の悪いこと	1 消極的 2 普通 3 積極的
YG@G	一般的活動性	1 非活動的 2 普通 3 活動的
YG@R	のんきさ	1 慎重 2 普通 3 のんき
YG@T	思考的外向	1 熟慮的 2 普通 3 非熟慮的
YG@A	支配性	1 服従的 2 普通 3 支配性大
YG@S	社会的外向	1 地味な人柄 2 普通 3 社交的

心理調査については、YG性格検査を実施して得られた各性格特性尺度（12特性）の粗点から個人得点を12尺度毎に算出し、検査用紙に記載されているパーセンタイル値から5段階判別の標準得点を判定し、その標準点を下位（1、2）、中位（3）、上位（4、5）のクラスに分けて解析に用いた。

なお、表3には、食行動および身体イメージにおける頻度集計結果を示した。

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

表3 食行動と身体イメージ

変数名 (略号)	設 問 項 目	カテゴリー区分	度数 (人)	頻度 (%)
EQ03	食事のことを考えただけで不安になる。	1 そう思う 2 そう思わない	7 191	3.54 96.46
EQ04	太りすぎるのが怖い。	1 そう思う 2 そう思わない	138 60	69.70 30.30
EQ15	もっとやせたいという思いに夢中になっている。	1 そう思う 2 そう思わない	88 110	44.44 55.56
EQ16	カロリーを消費するために一生懸命運動している。	1 そう思う 2 そう思わない	22 176	11.11 88.89
EQ17	一日に何回も体重を測る。	1 そう思う 2 そう思わない	21 176	10.66 89.34
EQ18	体にぴったりと合う服が好きである。	1 そう思う 2 そう思わない	44 154	22.22 77.78
EQ23	規則正しく生理がある。	1 そう思う 2 そう思わない	132 66	66.67 33.33
EQ24	自分はやせ過ぎだと人に思われている。	1 そう思う 2 そう思わない	18 180	9.09 90.91
EQ26	食事の時間が人より長い。	1 そう思う 2 そう思わない	62 136	31.31 68.69
EQ27	レストランで食事をするのが好きである。	1 そう思う 2 そう思わない	112 86	56.57 43.43
EQ30	ダイエット食品を食べている。	1 そう思う 2 そう思わない	5 193	2.53 97.47
EQ32	食べ物については自制心を発揮している。	1 そう思う 2 そう思わない	34 164	17.17 82.83
EQ36	甘いものを食べた後はイライラする。	1 そう思う 2 そう思わない	4 194	2.02 97.98
EQ37	ダイエットに夢中になっている。	1 そう思う 2 そう思わない	30 168	15.15 84.85
EQ38	空腹でいるのが好きである。	1 そう思う 2 そう思わない	7 191	3.54 96.46
EQ39	食べたことのないようなこってりしたものを食べてみるのが好きである。	1 そう思う 2 そう思わない	25 173	12.63 87.37
EQ40	食事の後で吐きたい衝動にかられる。	1 そう思う 2 そう思わない	8 190	4.04 95.96
BIMA	(身体イメージ) あなたは現在の体重をどのように感じていますか。	1 やせ・やややせ 2 ちょうどよい 3 やや肥え 4 非常に太っている	11 34 115 36	5.6% 17.3% 58.7% 18.4%

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

2・4 計算とデータ処理の方法

当該データの分析方法としては、分割表解析において赤池の情報量基準AIC（Akaike's Information Criterion）を用いた多次元分割表モデルの選択を試みた。なお、種々の計算は、京都大学大型計算機センターのFUJITSU M-1800システムを利用して行われた。AICによる統計解析には、文部省統計数理研究所で開発されたCATDAP（A Categorical Data Analysis Program Package^{4) 5)}）、種々の分析にはSAS（Statistical Analysis System⁶⁾）を利用して行った。

3 AICによる分割表モデルの選択についての考え方⁷⁾

社会心理学・被服学および諸研究分野ではしばしば意識調査やパネル調査を実施し、対象者である被験者群の意識動向を把握するために各種の統計的方法を採用して解析することがよく行なわれる。いま表aのように2つ以上の特性（アイテム変数）について、いくつかの

表a 分割表（クロス表）

アイテム変数 (i) アイテム変数 (j)		通 学 区 分		行 計
		1. 自 宅	2. 下 宿	
家 族 数	1. 3人以下	46	8	54
	2. 4人	208	10	218
	3. 5人以上	209	32	241
列 計		463	50	513

カテゴリー（クラス）に分類し、観測度数を求めた分割表（クロス表）によって両特性間の「関連性」を探ることが多い。フィッシャーによる独立性のカイの2乗（ χ^2 ）検定法はこのような当該特性間に「関連性があるか」、もしくは「関連性がないか」という客観的な判断を下すための統計量として広く用いられて来た。しかしながらカイ2乗検定法では、

〔1〕 サンプル数が増大すればカイ2乗値が大きな値をとる傾向⁸⁾にあり、特性変数の次数やカテゴリー数の増加はどのような尺度を用いても「関連度」の増大をもたらす不合理を招く場合がある。また特性間が“独立である（関連がない）”とする帰無仮説を棄却するための判断として経験的に採用される有意差の判定基準（たとえば1%とか5%）はそれ自体きわめて恣意的であること。

〔2〕 われわれの実施したアンケート調査に即していえば質問項目が56項目にも及び、これらの56項目の質問項目では、ある着目する特性変数1つについて55次元の分割表の作成が必

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

要となる。さらに各特性変数相互間の交互作用効果を探ろうとすると独立性のカイ 2 乗検定法では不可能になる場合があること。

〔3〕最も重要なことは、ある着目する変数を基準とした 2 つ以上の分割表を比較するという問題は独立性のカイ 2 乗検定では不可能であるという点である。〔1〕に関して付言すれば当該データをあつかう専門的・経験的知見を慎重かつ細心に導入しない限り見かけ上のカイ 2 乗値により「有意差あり」の判断で誤った判断を下すことにもなりかねないという重要な問題がある。

上述した諸問題を解決する統計的方法として赤池情報量基準 A I C (Akaike's Information Criterion) が提案された⁸⁾。

A I C は次式で定義される。

$$A I C = (-2) \log_e M + 2 K \quad \dots\dots\dots(1)$$

M : 与えられたデータによるそのモデルの最大尤度 (尤度関数)

K : モデルのなかで自由に变化させることのできるパラメータ数

この A I C の値が低いほど良いモデルであると評価される。通常、最大尤度が大きいほど、モデルは良いとされるが A I C はパラメータ数の項を含むため、パラメータ数の少ないモデルをよりよいものとするという原理が、評価の中に加わっている。二つ以上のモデルの中から A I C 最小のモデルをもつモデルを M A I C E (Minimum A I C Estimate) と呼ぶ。

赤池¹⁰⁾によればカイ 2 乗検定法は A I C の立場から見ると“ふたつのモデルの比較”といわれる。例えば i, j 変数のカテゴリー数がそれぞれ n_1, n_2 からなる分割表間の変数“関連し合っている”とするモデル (有効モデル) と、A I C の立場からみて“関連がない”つまり独立であるとするモデル (無効モデル) は (2) および (3) 式で表わされ、その制約式は (4) 式および (5) 式であたえられる。

$$A I C_1 = (-2) \sum_{i=1}^{n_1} \sum_{j=1}^{n_2} n(i, j) \log_2 \{n(i, j) / N\} + 2q \quad \dots\dots\dots(2)$$

$$A I C_0 = (-2) \sum_{i=1}^{n_1} \sum_{j=1}^{n_2} n(i, j) \log_2 \{N(i \cdot) N(\cdot j) / N^2\} + 2q \quad \dots\dots\dots(3)$$

$$\sum_{i=1}^{n_1} \sum_{j=1}^{n_2} p(i, j) = 1 \quad \dots\dots\dots(4)$$

$$\sum_{i=1}^{n_1} p(i \cdot) = 1 \quad \sum_{j=1}^{n_2} p(\cdot j) = 1 \quad \dots\dots\dots(5)$$

ただし $n(i, j)$ は (i, j) なる組合せが観測された頻度、 $p(i, j)$ はその組合せが発生する確立であり、 $N = \sum_i \sum_j n(i, j)$ はサンプルの総数をあらわす。また q は自由に動かすパラメータ $(p(i, j))$ 個数であり、 $N(i \cdot) = \sum_j n(i, j)$ と $N(\cdot j) = \sum_i n(i, j)$ はそれぞれ分割表の列計、行計を表わす。このようにして、(4)(5)の制約式のもとで有効モデル (A I C₁) と無効モデル (A I C₀) を計算し、その A I C 値の小さい方のモデルを良いモデルと

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

して採用するのである。つまり $AIC_1 - AIC_0 < 0$ であれば、分割表の特性変数間に“関連あり”とする有効モデルとして採用される。つまり各分割表に対応するモデルの尤度の比較によって確立分布の推定をめざしている。いま AIC_1 （有効モデル）と AIC_0 （無効モデル）をカイ二乗統計量

$$\chi^2 = \sum_{i,j} \{n(i,j) - n(i)n(j)/n\}^2 / \{n(i)n(j)/n\}$$

とすると漸近的につぎの関係が成り立つ

$$AIC = AIC_1 - AIC_0 \\ \cong -(\chi^2 - 2 \times d \cdot f)$$

ここに $d \cdot f$ は自由度

このような AIC の統計モデルの比較の方法を実現するための FORTRAN ライブラリーが CATDAP (A Categorical Data Analysis Program Package^{9)~12)} である。

4 AICによる原項目の分析結果および考察

我々は、先に本学学生の被服行動と YG 性格特性との関連について報告¹³⁾を行い、被服行動の主要な要因を次の7点に括って述べた。

つまり、

1. 被服における同調性に対する反応と評価
2. 被服による自己表現のしかたと優越意識との関連
3. 被服着用における性的魅力のとらえ方
4. 被服と流行についての意識
5. 被服素材に関する知識と活用に対する問題
6. 被服の購買意識の動向
7. 被服に対しての全般的な関心度

である。今回、これらの被服行動要因を構成する設問項目を軸に、YG 性格特性データ (YG12特性) と「食行動と身体イメージ調査の設問項目 (41問) のなかから任意に選択した18項目を加えて、分割表分析を行った結果は次のようである。以下、特に断わらない限り変数 (項目) は、表1～表3に掲げた略号で示す。

4・1 被服における同調性

被服行動における同調性とは、現存する社会規範に自分を合わせることであり、原項目では HQ02 (着るものにこだわらない方がよいと思いますか)、HQ06 (女性の目を意識して服を着ていると思いますか)、HQ09 (自分の服装に対して他人がどう思っているかを気に

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

する方ですか)、H Q23 (人の服装を見て色々と批判する方ですか) がこれに該当する。いま、主なものについて検討すれば次のようである。

4・1・1 着目する変数H Q02 (着るものにこだわらない方がよいと思いますか) に対して、55説明変数 (他の原項目) のどの項目がより多くの情報量を持つか、つまり関連性が強いかをA I C値の小さい順に並べたものが表4である。

表4

(説明変数)		カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	HQ06#4	3	-13.29	0.0
2	HQ10#8	3	-8.65	4.63
3	HQ26#20	3	-7.90	0.75
4	HQ12#10	3	-5.28	2.63
5	YG00#52	3	-4.52	0.76
6	EQ23#34	2	-3.74	0.77
7	YG0N#53	3	-2.22	1.52
8	HQ23#18	3	-2.00	0.22
9	EQ39#43	2	-1.85	0.16
10	HQ09#7	3	-1.67	0.18
11	EQ26#36	2	-1.24	0.43
12	EQ37#41	2	-1.13	0.12
13	YG0I#47	3	-0.77	0.36
14	HQ05#3	3	-0.38	0.39
15	HQ27#21	3	-0.25	0.13
16	EQ15#30	2	0.07	0.32
17	HQ18#14	3	0.82	0.74
18	EQ24#35	2	0.91	0.09
19	EQ03#28	2	1.13	0.22
20	HQ25#19	3	1.57	0.44
21	EQ38#42	2	1.89	0.32
22	EQ16#31	2	1.94	0.05
23	EQ04#29	2	1.99	0.05
24	EQ36#40	2	1.99	0.00
25	HQ33#25	3	2.51	0.53
26	YG0C0#51	3	2.53	0.01
27	HQ20#16	3	2.55	0.02
28	EQ17#32	2	2.56	0.01
29	YG0R#48	3	2.83	0.27
30	HQ14#11	3	2.88	0.06
31	EQ32#39	2	3.01	0.12
32	HQ07#5	3	3.04	0.04
33	HQ16#12	3	3.11	0.07
34	EQ30#38	2	3.20	0.08
35	EQ18#33	2	3.40	0.21
36	EQ40#44	2	3.47	0.07
37	EQ27#37	2	3.92	0.45
38	HQ03#2	3	4.08	0.16
39	HQ21#17	3	4.41	0.32
40	HQ17#13	3	4.44	0.04
41	YG0C#55	3	4.98	0.54
42	HQ08#6	3	5.18	0.20
43	YG0S#45	3	5.22	0.04
44	YG0I#54	3	5.76	0.54
45	YG0AG#50	3	5.85	0.09
46	YG0A#46	3	5.88	0.02
47	YG0G#49	3	6.33	0.46
48	YG0D#56	3	6.87	0.53
49	HQ11#9	3	6.95	0.08
50	HQ32#24	4	7.09	0.14
51	HQ19#15	3	7.80	0.71
52	BIMA#27	4	9.84	2.04
53	HQ31#23	6	11.22	1.38
54	HQ37#26	6	12.62	1.40
55	HQ30#22	5	13.02	0.41

表4によれば、H Q02に対して最も関連性の強い説明変数はH Q06であり、次いでH Q10、……H Q27と関連性のある説明変数が続く。A I C値がー (マイナス) 値を取っている変数までがA I Cの立場から見て関連性がある変数である。H Q02に対して関連度の強い順に対

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

応する分割表*について検討すれば、着るものにこだわる者で、①女性の目を意識して服を着る者が39.8% ②服装は自己表現の有力な手段であると思う者55.6% ③服装により美しく変身するのを楽しみにする者66.3% ④目立たない地味な服装は好きではない者43.4%であることなどがわかる。

*順位に対応する分割表は、紙幅の関係で掲載は割愛した。

CATDAPでは、この他、着目変数に対して2変数からK個まで説明変数を順次増加させた場合について、AICを小さい順に並べ直した一覧表が出力されるが、紙幅の関係で同様に割愛した。

さらにCATDAPでは、着目変数に説明変数との最適の組合せを算出する。

表5に当該説明変数のもとでの最適な分割表のAIC表、表6に最適組合せの分割表（上段が頻度表、下段が百分率で示した表）をしめす。

表5

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	HQ06#4	3	-13.29	0.0
2	HQ06#4 EQ27#37	6	-12.12	1.16
3	HQ06#4 EQ39#43	6	-10.86	1.26
4	HQ06#4 EQ23#34	6	-10.13	0.74
5	HQ06#4 HQ10#8	9	-10.09	0.04
6	HQ06#4 YG@0#52	9	-9.82	0.27
7	HQ10#8	3	-8.65	1.17
8	HQ26#20	3	-7.90	0.75
9	HQ06#4 EQ24#35	6	-7.46	0.44
10	HQ06#4 HQ25#19	9	-7.05	0.41
11	HQ06#4 EQ15#30	6	-6.26	0.79
12	HQ06#4 EQ26#36	6	-5.87	0.40
13	HQ12#10	3	-5.28	0.59
14	HQ06#4 EQ03#28	6	-5.17	0.10
15	HQ06#4 EQ37#41	6	-5.15	0.02
16	HQ06#4 EQ16#31	6	-5.15	0.01
17	HQ06#4 EQ40#44	6	-5.12	0.02
18	HQ06#4 HQ23#18	9	-5.09	0.03
19	HQ06#4 HQ08#6	9	-4.70	0.38
20	HQ06#4 EQ38#42	6	-4.62	0.09
21	YG@0#52	3	-4.52	0.10
22	HQ06#4 EQ17#32	6	-4.48	0.04
23	HQ06#4 HQ12#10	9	-4.35	0.12
24	HQ06#4 EQ18#33	6	-3.85	0.51
25	EQ23#34	2	-3.74	0.10
26	HQ06#4 HQ18#14	9	-3.54	0.20
27	HQ06#4 EQ32#39	6	-3.47	0.07
28	HQ06#4 EQ36#40	6	-3.19	0.28
29	HQ06#4 HQ26#20	9	-2.85	0.34
30	HQ06#4 EQ04#29	6	-2.68	0.17
31	YG@N#53	3	-2.22	0.45
32	HQ06#4 EQ30#38	6	-2.16	0.06
33	HQ23#18	3	-2.00	0.16
34	EQ39#43	2	-1.85	0.16
35	HQ09#7	3	-1.67	0.18
36	HQ06#4 YG@N#53	9	-1.66	0.01
37	EQ26#36	2	-1.24	0.42
38	EQ37#41	2	-1.13	0.12
39	YG@T#47	3	-0.77	0.36
40	HQ05#3	3	-0.38	0.39
41	HQ27#21	3	-0.25	0.13

以下省略

表5より、HQ02における分割表分析では、最適変数はHQ06（AIC値-13.29）であり、次いでHQ06との組合せという形で順次EQ27、EQ39、EQ23とHQ10、およびYG特性のOというような順で情報量が多くなっている。

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

表 6

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):HQ02#1

X(2):HQ06#4

X				
-				
2	RESPONSE VARIABLE			
-				
	X(1)	1	2	3

1		5	78	13
2		12	27	11
3		2	32	16

TOTAL		19	137	40
			196	

	X(1)	1	2	3

1		5.2	81.3	13.5
2		24.0	54.0	22.0
3		4.0	64.0	32.0

TOTAL		9.7	69.9	20.4
			100.0	

H Q02に対する最適変数として選択された分割表（表 6）について検討すると、自分自身が大切だから服装にこだわらなという考え方に否定的で、女性の目を意識して服を着る者の組合せが全体で196人中78人（39.8%）（A I C値-13.29）で圧倒的に多いことがわかる。

一方、男性の目を意識して服を着るか（H Q05）の対応では、196人中50人（25.5%）でA I C値-0.38と微かに有意性が認められる程度であることを考えると対象的である。

ところで最適変数の組合せではH Q02に対し、前述したようにH Q06（女性の目を意識して服を着ていると思いますか）とH Q10の組合せがA I C値=-10.13、H Q06 * Y G @ Oの組合せがA I C値=-9.82で有意な組合せとして選択されている。いずれもH Q06単独の組合せ（A I C値=-13.29）よりも情報量は少ないが、H Q10の設問は「被服着装行動が自己表現の有力な手段であるか」を問うものであり、見方を変えればH Q02との類似設問といえなくもない。これらの関係を表 7 の分割表より、その関連性について検討すると、「服

表 7 同調性設問に対する説明変数との分割表 n=196 ()内は比率(%)を示す。

説 明 変 数		着 目 変 数			計
女性の眼を 意 識	自己表現の 手 段	服装にはこだわらない			
		思う	思わない	わからない	
す る	思う	4 (2.0)	66(33.7)	8 (4.1)	78(39.8)
	思わない	0 (0)	9 (4.6)	1 (0.5)	10 (5.1)
	わからない	1 (0.5)	3 (1.5)	4 (2.0)	8 (4.1)
し ない	思う	6 (3.1)	20(10.2)	4 (2.0)	30(15.3)
	思わない	4 (2.0)	5 (2.6)	4 (2.0)	13 (6.6)
	わからない	2 (1.3)	2 (1.3)	3 (1.5)	7 (3.6)
わからない	思う	1 (0.5)	23(11.7)	7 (3.6)	31(15.8)
	思わない	0 (0)	3 (1.5)	7 (3.6)	10 (5.1)
	わからない	1 (0.5)	6 (3.1)	2 (1.3)	9 (4.6)
計		19 (9.7)	137(69.9)	40(20.4)	196

A I C値=-10.13

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

装には大いにこだわり」、被服の着想に関しては「同性の目」を意識し、かつ「服装が大いに自己表現の手段」であるという者が全体の33.7%を占め最も多い。

次に「同性の眼」は意識しない（わからないと回答した者も含む）と回答したグループでも服装が「自己表現の手段」であり、服装にはこだわらないという設問に否定する者がそれぞれ全体の10.2%, 11.7%を占め、服装は自己表現のための大きなウェートを占め、かつ被服の着装行動においては異性の眼に対してよりも同性の眼をかなり意識しているという本学学生における同調性傾向をうかがい知ることができた。

4・1・2 HQ23（人の服装を見て色々と批判する方ですか）を着目変数にした場合のAICによる最適変数の組合せを表8に、その分割表を表9に示す。

表8

	(説明変数)		カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	EQ04#29	YG0N#53	6	-18.54	0.0
2	EQ04#29	YG0R#48	6	-14.12	4.43
3	EQ04#29		2	-13.47	0.64
4	EQ04#29	HQ18#14	6	-12.86	0.62
5	EQ04#29	YG0C0#51	6	-12.13	0.73
6	EQ04#29	YG0G#49	6	-11.34	0.79
7	EQ04#29	HQ20#16	6	-11.25	0.09
8	EQ04#29	YG0T#47	6	-11.08	0.17
9	EQ04#29	EQ17#32	4	-11.04	0.04
10	EQ04#29	EQ03#28	4	-11.04	0.00
11	EQ04#29	YG00#52	6	-11.03	0.00
12	EQ04#29	YG0AG#50	6	-10.98	0.05
13	EQ04#29	HQ02#1	6	-10.97	0.02
14	EQ04#29	HQ10#8	6	-10.51	0.45
15	EQ04#29	EQ26#36	4	-10.42	0.09
16	EQ04#29	EQ39#43	4	-10.41	0.01
17	EQ04#29	EQ16#31	4	-10.35	0.06
18	EQ15#30		2	-10.24	0.11
19	EQ04#29	EQ15#30	4	-10.23	0.01
20	EQ04#29	YG0I#54	6	-9.93	0.30
21	EQ04#29	EQ37#41	4	-9.75	0.18
22	EQ04#29	YG0A#46	6	-9.69	0.05
23	EQ04#29	HQ08#6	6	-9.67	0.02
24	YG0N#53		3	-9.64	0.03
25	YG0R#48		3	-9.06	0.58
26	EQ04#29	EQ18#33	4	-8.82	0.24
27	EQ04#29	EQ27#37	4	-8.71	0.11
28	YG0C0#51		3	-8.28	0.43
29	YG00#52		3	-8.03	0.25
30	EQ04#29	YG0D#56	6	-7.70	0.33
31	EQ04#29	EQ24#35	4	-7.43	0.27
32	EQ04#29	EQ40#44	4	-6.81	0.62
33	EQ04#29	EQ32#39	4	-6.80	0.00
34	EQ04#29	EQ36#40	4	-6.68	0.13
35	EQ04#29	EQ23#34	4	-6.41	0.27
36	YG0G#49		3	-6.22	0.19
37	EQ04#29	EQ38#42	4	-5.93	0.29
38	EQ04#29	EQ30#38	4	-5.90	0.03
39	EQ04#29	HQ03#2	6	-5.80	0.10
40	HQ10#8		3	-5.66	0.14
41	EQ04#29	HQ06#4	6	-4.99	0.67
42	EQ17#32		2	-4.71	0.27
43	EQ04#29	HQ09#7	6	-4.07	0.65
44	YG0AG#50		3	-3.94	0.13
45	EQ04#29	HQ19#15	6	-3.57	0.37
46	EQ04#29	YG0S#45	6	-3.52	0.05
47	YG0D#56		3	-3.51	0.01
48	HQ20#16		3	-2.99	0.52
49	EQ04#29	HQ11#9	6	-2.97	0.02
50	EQ04#29	HQ12#10	6	-2.77	0.20
51	EQ04#29	HQ33#25	6	-2.71	0.06
52	BIMA#27		4	-2.35	0.36
53	EQ04#29	YG0N#53	EQ26#36 12	-2.32	0.03
54	EQ04#29	YG0C#55	6	-2.29	0.03
55	EQ03#28		2	-2.21	0.08

以下省略

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

表 9

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES
X(1):HQ23#18 X(2):EQ04#29 X(3):YG@N#53

X X		RESPONSE VARIABLE			
2 3		X(1) 1 2 3			
1 1		26	24	10	60
1 2		33	26	7	66
1 3		2	1	7	10
2 1		5	23	1	29
2 2		10	15	1	26
2 3		1	3	1	5
TOTAL		77	92	27	196

X(1) 1 2 3		43.3	40.0	16.7	100.0
1 1		50.0	39.4	10.6	100.0
1 2		20.0	10.0	70.0	100.0
1 3		17.2	79.3	3.4	100.0
2 1		38.5	57.7	3.8	100.0
2 2		20.0	60.0	20.0	100.0
2 3		39.3	46.9	13.8	100.0
TOTAL					

H Q23を着目変数とした場合の最適の組合せは、E Q04とY G@Nであり、次いでE 04とY G@R、E 04、E Q04とH Q18、次いでE Q04とY G@C oと続いている。

着目変数のH Q23の全体の比率は、批判する方である（39.3%）、批判しない方である（46.9%）であり、人の服装を批判しない者が約半数を占める。

H Q23に対して最適組合せのE Q04とY G@Nの分割表（表 9）について考察すると、E Q04のカテゴリー#1#* でY G@Nのカテゴリー#1#の者が全体の30.6%（60人）を占め、E Q04（#1#）でY G@N（#2#）の者が33.7%（66人）となっている。

*以下 第nカテゴリーの表現を#n#と記述する。
つまり、人の服装を批判する者もしない者も自分の太り過ぎには関心を持ち、Y G特性では神経質でないか、もしくは普通の人達で占められている。ただ、人の服装を批判しない者を軸にみると、太りすぎにも関心を払わず、神経質でもない者で人の服装を批判する者が17.2%であるのに対し批判しない者が79.3%であることが読みとれる。

このように着目変数H Q23に対する最適変数の組合せを見ると、食行動に関する項目であるE Q04（太り過ぎるのが怖い）と結びついて情報量が多い（関連度の強い）組合せが続くが、我々が同調性に関する設問としてとり上げたH Q02はA I C値＝－2.00とH Q23に対し

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

て有意性が認められたが、H Q06およびH Q09はそれぞれA I C値が1.62、6.07とH Q23に関して独立（無関連）という結果になり、選択した同調性の原項目間には必ずしも一律に相関が認められないことがわかった。しかし、結果を見ると単独変数としては無関連と見なされたが、H Q06・H Q09の同調性項目が食行動項目のE Q04と結びつくとA I C値はそれぞれ-4.99、-4.07となり有意な組合せとなった。このことは「他人の服装を批判する方ですか」（H Q23）という項目とH Q06、H Q09に見られる同性の眼、他人の眼に対する直接的な統計的有意性は認められないものの、他の要因（ここでは食行動調査における太りすぎへの関心）と結びついて有意な項目として選択されることがわかった。

4・2 被服による自己表現のしかたと優越意識

人間は同調を望みながら、他方で他人と同じでありたくないという個別意識（個性化）や優越性をも望むという矛盾を持っており、被服行動にはこの傾向がみられる。

原項目のH Q03（個性的な服を着る方がよいと思いますか）、H Q10（服装は自己表現の有力な手段であると思いますか）、H Q12（目立たない地味な服装が好きですか）、H Q14（少し高価でもデザインと品質のよいものを選んでよいと思いますか）、H Q18（今日はどんな服を着ようかと考えるのは楽しいですか）、H Q26（服装によって美しく変身するのが楽しみですか）が個性的な自己表現や優越性を表わすものと考えられる。

4・2・1 H Q03（個性的な服を着る方がよいと思いますか）を着目変数とした場合の最適組合せのA I C値を表10に、その分割表を表11に示した。

表10

	(説明変数)	カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	HQ19#15	3	-11.40	0.0
2	YG@S#45	3	-9.30	2.11
3	YG@T#47	3	-8.00	1.30
4	HQ19#15 EQ39#43	6	-7.92	0.08
5	HQ19#15 EQ18#33	6	-6.50	1.43
6	HQ19#15 EQ16#31	6	-6.11	0.39
7	EQ39#43	2	-5.25	0.86
8	HQ19#15 EQ04#29	6	-5.18	0.07
9	EQ39#43 EQ04#29	4	-3.77	1.41
10	HQ19#15 HQ33#25	9	-3.37	0.40
11	HQ09#7	3	-3.17	0.20
12	EQ16#31	2	-3.03	0.14
13	HQ19#15 HQ12#10	9	-2.95	0.08
14	HQ19#15 EQ27#37	6	-2.57	0.38
15	HQ19#15 EQ37#41	6	-1.94	0.63
16	HQ26#20	3	-1.86	0.08
17	HQ10#8	3	-1.61	0.25
18	HQ19#15 EQ03#28	6	-1.58	0.03
19	HQ19#15 YG@S#45	9	-1.54	0.04
20	HQ19#15 EQ23#34	6	-1.40	0.14
21	EQ04#29	2	-0.85	0.55
22	HQ19#15 EQ15#30	6	-0.78	0.07
23	HQ08#6	3	-0.78	0.00
24	HQ19#15 HQ10#8	9	-0.63	0.14
25	HQ19#15 EQ38#42	6	-0.49	0.14
26	HQ19#15 EQ24#35	6	-0.38	0.11
27	HQ19#15 EQ26#36	6	-0.29	0.09
28	YG@A#46	3	-0.26	0.02
29	HQ19#15 EQ36#40	6	-0.04	0.22
30	HQ19#15 YG@T#47	9	-0.02	0.02

以下省略

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

表11

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES					
X(1):HQ03#2		X(2):HQ19#15			
X					
-					
2		RESPONSE VARIABLE			
-					
	X(1)	1	2	3	
1		56	39	42	137
2		22	10	8	40
3		1	5	13	19
TOTAL		79	54	63	196
	X(1)	1	2	3	
1		40.9	28.5	30.7	100.0
2		55.0	25.0	20.0	100.0
3		5.3	26.3	68.4	100.0
TOTAL		40.3	27.6	32.1	100.0

この着目変数に対して分割表分析では、最適変数はH Q19であり（A I C＝－11.40）、次いでY G特性のS、Y G特性のTと続く。次いでH Q19＊E Q39（A I C値＝－7.92）、H Q19＊E Q18（A I C値＝－6.50）の2変数の組合せという順で選択されている。表11をみれば、個性的な服を肯定する者（全体の40.3％）が否定する者（27.6％）より多く、この個性化の肯定派で外出時に着る服が無くて外出がいやなることがある者の組合せが、全体の28.6％で目立っている。個性化も「同調」と同様に、他人がどう思うか、他人の目を気にする意識であるが、分析結果からこの傾向がみられ興味深い。

ところで我々が被服行動項目における「被服による自己表現と優越意識」として選択した原項目をそれぞれ着目変数としてC A T D A Pによるそれぞれ100組の多次元分割表から1位から3位までの組合せと被服行動項目でそれ以後選択された組合せと順位、A I C値を示したのが表12である。

表12により概括的に検討して見ると、着目変数がH Q10とH Q26の場合は両者に高い相関性が認められ最適変数として選択される組合せは相補的になっている。つまり、被服が自己表現の有力な手段であることは一つの変身願望の顕れとして被験者には意識されていることが明らかであり、個性的な服装について強い意志をもっている者は適当な（納得できる）服がないと外出がいやになる傾向の比率が高く、それはY G性格特性のS（社会的外向）、T（思考的外向）の尺度が有意な項目として選択されていることを勘案すれば、性格という因

子は見逃せないであろう。また地味な服の着用に消極的な者のグループでは最先端の服への羨望、願望が強く、デザイン・品質を重視する多くの者は被服について「今日どんな服を着るかを考えるのは楽しい」としている比率が高く、それはまた被服による自己表現意識の強さにも関連することが明らかになった。これらは前報における2次元のカイ2乗検定分析においても傾向的に示されていたことではあるが、A I Cによる多次元分割表分析においてより明確になった。

表12 「自己表現・優越意識項目」との関連性

着目変数	最適変数 組合せ (A I C値)	2位の 組合せ (A I C値)	3位の 組合せ (A I C値)	被服行動 項目 (順位、A I C値)
HQ03	HQ19 (-11.4)	YG@S (-9.30)	YG@T (-8.0)	HQ19 * HQ33 (13, -2.57)
HQ10	HQ26 * EQ15 (-27.80)	HQ26 (-13.06)	EQ18 * HQ26 * EQ15 (-12.73)	HQ26 * HQ14 (8, -12.19)
HQ12	HQ17 * EQ04 (-47.66)	HQ17 (-47.10)	HQ17 * EQ15 (-46.6)	HQ17 * HQ25 (5, -42.89)
HQ14	YG@N * EQ26 (-11.94)	YG@N * EQ27 (-11.70)	YG@N (-11.27)	HQ18 (4, -10.46)
HQ18	HQ10 * EQ18 (-19.51)	HQ10 * HQ19 (-16.04)	HQ10 * YG@R (-15.92)	HQ14 (6, -10.46)
HQ26	HQ10 * EQ15 (-22.48)	HQ10 * HQ14 (-18.1)	HQ10 * HQ6 (-15.29)	HQ10 (5, -13.06)

次に「自己表現、優越意識」の二、三の原項目について以下に検討する。

4・2・2 HQ10（服装は自己表現の有力な手段であると思いますか）を着目変数とした場合については、表13に最適な組合せのA I C表、表14にその分割表を示す。

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

表13

(説明変数)				カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	HQ26#20	EQ15#30		6	-27.80	0.0
2	HQ26#20			3	-13.06	14.75
3	HQ26#20	EQ15#30	EQ18#33	12	-12.73	0.33
4	HQ18#14			3	-12.69	0.04
5	HQ26#20	EQ15#30	EQ27#37	12	-12.56	0.13
6	HQ26#20	EQ15#30	EQ26#36	12	-12.50	0.07
7	HQ26#20	EQ04#29		6	-12.31	0.19
8	HQ26#20	HQ14#11		9	-12.19	0.12
9	HQ26#20	HQ33#25		9	-11.79	0.40
10	HQ26#20	EQ15#30	EQ32#39	12	-11.61	0.18
11	HQ26#20	EQ15#30	EQ30#38	12	-11.28	0.33
12	HQ26#20	HQ06#4		9	-9.82	1.46
13	HQ26#20	HQ23#18		9	-9.58	0.24
14	HQ26#20	EQ15#30	EQ36#40	12	-9.49	0.09
15	HQ26#20	EQ37#41		6	-9.39	0.11
16	HQ26#20	EQ27#37		6	-8.61	0.57
17	HQ26#20	HQ19#15		9	-8.70	0.11

以下省略

表14

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):HQ10#8

X(2):HQ26#20

X(3):EQ15#30

X X
- -
2 3
- -

RESPONSE VARIABLE

X(1)	1	2	3
1 1	69	6	2
1 2	58	16	13
2 1	1	1	0
2 2	4	1	4
3 1	1	2	5
3 2	6	7	0
TOTAL	139	33	24

X(1)	1	2	3
1 1	89.6	7.8	2.6
1 2	66.7	18.4	14.9
2 1	50.0	50.0	0.0
2 2	44.4	11.1	44.4
3 1	12.5	25.0	62.5
3 2	46.2	53.8	0.0
TOTAL	70.9	16.8	12.2

HQ10を着目変数とした場合には、最適組合せはHQ26 * EQ15 (AIC値-27.80) の2変数の組合せであり、次いでHQ26、HQ26 * EQ15 * EQ18と続く。

HQ10に対する肯定派の服装は自己表現の有力な手段であると思う者(全体の70.9%)が否定派(16.8%)よりも圧倒的に多くなっている。

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

HQ10に対して最適組合せのHQ26とEQ15の分割表（表14）を更に検討すれば、HQ26およびEQ15のカテゴリー#1#の者が全体の39.3%であり、HQ26(#1#)でEQ15(#2#)の者が44.4%である。つまり、服装は自己表現の有力な手段であると思う者も思わない者も、服装によって美しく変身するのを楽しみにして、もっとやせたい者や、やせたくない者で大部分（83.7%）を占めている。次に服装は自己表現の有力な手段であると思う者を軸にみれば、服装により美しく変身するのを楽しみにして、もっとやせたい者で、服装は自己表現の有力な手段であると思う者が89.6%であり、否定派の7.8%よりも非常に多いことがわかる。

4・2・3 HQ14（少し高価でもデザインと品質のよいものを選んでいただきますか）を着目変数とした場合の最適の組合せ（表15）は、YG@N*EQ26（AIC=-11.94）であり、次いでYG@N*EQ27、YG@N、YG@N*HQ09と続いていく。

表15

(説明変数)			カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	YG@N#53	EQ26#36	6	-11.94	0.0
2	YG@N#53	EQ27#37	6	-11.70	0.24
3	YG@N#53		3	-11.27	0.43
4	YG@N#53	HQ09#7	9	-11.21	0.07
5	YG@N#53	HQ18#14	9	-10.68	0.53
6	HQ18#14		3	-10.46	0.22
7	YG@C0#51		3	-8.89	1.57
8	YG@C0#55		3	-8.41	0.48
9	YG@N#53	EQ32#39	6	-7.42	0.99
10	HQ26#20		3	-6.65	0.77
11	YG@N#53	EQ03#28	6	-6.21	0.43
12	YG@0#52		3	-5.66	0.55
13	HQ25#19		3	-5.40	0.26
14	YG@N#53	HQ25#19	9	-5.39	0.01
15	YG@N#53	HQ05#3	9	-5.25	0.14
16	HQ09#7		3	-5.24	0.02
17	YG@N#53	YG@C0#51	9	-5.17	0.06
18	YG@S#45		3	-5.07	0.10
19	HQ27#21		3	-4.18	0.89
20	YG@N#53	HQ27#21	9	-3.31	0.87
21	YG@N#53	EQ15#30	6	-3.29	0.02
22	HQ19#15		3	-3.21	0.08
23	EQ26#36		2	-3.13	0.08
24	YG@N#53	EQ04#29	6	-3.07	0.06
25	YG@G#49		3	-2.98	0.09
26	HQ06#4		3	-2.42	0.55
27	YG@N#53	EQ17#32	6	-2.21	0.21
28	YG@N#53	EQ37#41	6	-1.91	0.30
29	HQ21#17		3	-1.86	0.05
30	YG@N#53	EQ36#40	6	-1.48	0.37
31	YG@T#47		3	-1.25	0.24
32	YG@N#53	EQ39#43	6	-1.17	0.08
33	YG@N#53	EQ40#44	6	-1.12	0.05
34	YG@N#53	HQ06#4	9	-1.09	0.03
35	YG@N#53	EQ30#38	6	-1.05	0.04
36	YG@N#53	EQ18#33	6	-1.00	0.05
37	YG@A#46		3	-0.55	0.45
38	EQ27#37		2	-0.53	0.02
39	HQ05#3		3	-0.38	0.15
40	YG@N#53	HQ26#20	9	-0.14	0.24
41	YG@N#53	EQ24#35	6	-0.13	0.02

以下省略

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

表16

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):HQ14#11

X(2):YG@N#53

X(3):EQ26#36

X X	RESPONSE VARIABLE				
- -					
2 3					
- -					
	X(1)	1	2	3	
1 1		22	4	3	29
1 2		31	20	9	60
2 1		15	4	9	28
2 2		23	19	22	64
3 1		1	2	1	4
3 2		3	0	8	11
TOTAL		95	49	52	196

	X(1)	1	2	3	
1 1		75.9	13.8	10.3	100.0
1 2		51.7	33.3	15.0	100.0
2 1		53.6	14.3	32.1	100.0
2 2		35.9	29.7	34.4	100.0
3 1		25.0	50.0	25.0	100.0
3 2		27.3	0.0	72.7	100.0
TOTAL		48.5	25.0	26.5	100.0

HQ14に対する最適組合せのYG@NとEQ26の分割表（表16）によれば、着目変数HQ14の全体の比率としては、少し高価でもデザインと品質のよいものを選ぶ者（48.5%）、選ばない者（25.0%）であり、約半数の者がデザインと品質のよいものを選んでいる。

次に、YG特性では神経質でなく、食事時間が人より長くない者で、デザインと品質のよいものを選ぶ者が60人中31人（51.7%）と多く、YG特性の普通の者で同様に食事時間も長くない、デザイン、品質のよいものを選ぶ者が64人中23人（35.9%）であることが分析結果からわかった。

4・3 被服着用における性的魅力のとらえ方

着衣の起源説の一つに性差アピール説¹⁴⁾がある。これは、男女は互いに異なる部分を目立たせてアピールするために美しく装い、異性を惹きつけようとして衣服を着るようになったという説である。この被服による性的魅力の意識については原項目のHQ05（男性の目を意識して服を着ていると思いますか）およびHQ33（ジーンズをはくのが好きですか）が該当する。

4・3・1 HQ05（男性の目を意識して服を着ていると思いますか）を着目変数とした場合の最組合せのAIC値表を表17に、その分割表を表18にしめす。

表17

(説明変数)			カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	HQ06#4		3	-128.40	0.0
2	HQ06#4	EQ24#35	6	-121.23	7.16
3	HQ06#4	EQ36#40	6	-118.31	2.92
4	HQ06#4	EQ30#38	6	-117.09	1.22
5	HQ06#4	EQ40#44	6	-116.82	0.27
6	HQ06#4	EQ03#28	6	-116.71	0.11
7	HQ06#4	EQ27#37	6	-116.01	0.70
8	HQ06#4	EQ32#39	6	-115.99	0.01
9	HQ06#4	EQ18#33	6	-115.79	0.20
10	HQ06#4	EQ23#34	6	-114.97	0.82
11	HQ06#4	EQ37#41	6	-114.75	0.22
12	HQ06#4	EQ04#29	6	-114.72	0.03
13	HQ06#4	EQ15#30	6	-114.35	0.37
14	HQ06#4	EQ26#36	6	-114.22	0.13
15	HQ06#4	EQ16#31	6	-113.92	0.30
16	HQ06#4	EQ38#42	6	-113.73	0.18

以下省略

表18

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):HQ05#3

X(2):HQ06#4

X	RESPONSE VARIABLE				
-					
2					
-					
	X(1)	1	2	3	
1		57	27	12	96
2		3	46	1	50
3		2	13	35	50
TOTAL		62	86	48	196

X	RESPONSE VARIABLE				
-					
2					
-					
	X(1)	1	2	3	
1		59.4	28.1	12.5	100.0
2		6.0	92.0	2.0	100.0
3		4.0	26.0	70.0	100.0
TOTAL		31.6	43.9	24.5	100.0

HQ05に対する最適組合せの変数はHQ06であり（AIC＝－128.40）、次いで2変数のHQ06＊EQ24、HQ06＊EQ36、HQ06＊EQ30となり、以下すべてHQ06をキーとする組合せが続く、HQ05に対するHQ06の関連性が強いことがわかる。

表18をみれば、服を着る時に男、女両性の目を意識する者は全体の29.1%であるが、反対に男、女両性の目を意識しない者も23.5%であり、意見が両極端になっている。さらに検討すれば、男性の目は意識しないが女性の目を意識する者13.8%に対し、女性の目は意識しないが男性の目を意識する者は1.5%と極端に少ない。被験者は異性の目よりも同性の目を意識して服を着ており、服装により性的魅力を引き出そうという意識はまだ少ない現状が読みとれる。

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

4・3・2 HQ33（ジーンズをはくのが好きですか）を着目変数とした場合のAICによる最適説明変数の組合せを表19に、その分割表を表20に示した。

表19

(説明変数)			カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	HQ06#4		3	-8.11	0.0
2	HQ06#4	EQ26#36	6	-7.87	0.24
3	HQ17#13		3	-5.25	2.62
4	HQ12#10		3	-3.42	1.82
5	HQ06#4	EQ37#41	6	-3.33	0.09
6	HQ06#4	EQ15#30	6	-2.92	0.41
7	HQ27#21		3	-2.23	0.70
8	HQ06#4	EQ32#39	6	-1.58	0.65
9	HQ16#12		3	-1.47	0.11
10	HQ06#4	EQ39#43	6	-0.95	0.53
11	HQ06#4	HQ17#13	9	-0.78	0.17
12	HQ06#4	EQ30#38	6	-0.63	0.14
13	HQ06#4	EQ16#31	6	-0.56	0.07
14	HQ06#4	EQ24#35	6	-0.36	0.20
15	HQ06#4	EQ27#37	6	-0.35	0.01
16	HQ06#4	HQ19#15	9	-0.30	0.05

以下省略

表20

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):HQ33#25

X(2):HQ06#4

X				
-				
2	RESPONSE VARIABLE			
-				
	X(1)	1	2	3
1		70	16	10
2		40	2	8
3		27	7	16
TOTAL		137	25	34

	X(1)	1	2	3
1		72.9	16.7	10.4
2		80.0	4.0	16.0
3		54.0	14.0	32.0
TOTAL		69.9	12.8	17.3

表19によれば、着目変数に対する説明変数の組合せではHQ06がAIC値-8.11で最も関連性が強く、HQ06*EQ26、HQ17、HQ12と続いているが、HQ05（男性の目を意識）とは無関連の結果となっている。表20の分割表で細かく見ていくと、ジーンズをはくのが好きな者で女性の目を意識して服を着る者の組合せが全体で35.7%と多く、次いでジーンズを好むが女性の目意識しない者は20.4%であることがみられた。お尻にぴったりフィットする

ジーンズは、性差の特徴である臀部を強調するものであるが、本調査では異性の目よりも同性の目を意識する傾向がみられ、H Q 05（男性の目を意識）への対応と同様に性的な面は認められなかった。

4・4 被服と流行についての意識

流行現象は生活のあらゆる領域にみられるが、特に被服とは関係が深く、人は常に新しい流行の服を追い求める。被服の流行に対する意識としては、原項目のH Q 17（流行の先端の服を着るのは恥ずかしいですか）、H Q 20（流行に流されるのが嫌いで、はやりすたりのない服を選ぶ方ですか）、H Q 25（流行を追うつもりはないのに、いつの間にか流行に乗せられていることがあすか）、H Q 27（有名ブランドの服を着てみたいと思いますか）が該当する。

これらの流行意識に係るそれぞれの原項目（H Q 17、H Q 20、H Q 25、H Q 27）を着目変数として多次元分割表分析の結果を最適組合せを含む上位3位の組合せと被服行動項目が顕れる組合せをまとめて示したものが表21である。ここでH Q 20とH Q 25は流行に対して直接的に問うた設問であるのでこの両問に対する反応について検討して見ることにする。

表21 流行意識項目との関連性

着目変数	最適変数組合せ (AIC値)	2位の組合せ (AIC値)	3位の組み合わせ (AIC値)	被服行動項目 (順位、AIC値)
HQ17	HQ12 * EQ15 (-48.81)	HQ12 (-47.1)	HQ12 * EQ04 (-45.28)	HQ12 * HQ33 (12, -37.59)
HQ20	YG@N * EQ27 (-22.37)	YG@N (-16.48)	YG@N * EQ23 (-13.25)	YG@N * HQ06 (7, -10.22)
HQ25	HQ27 * HQ18 (-17.66)	HQ27 * HQ12 (-17.13)	HQ27 (-14.75)	HQ27 * HQ10 (4, -13.19)
HQ27	HQ06 * EQ24 (-26.35)	HQ06 (-23.25)	HQ06 * EQ04 (-20.64)	HQ06 * HQ25 (5, -19.52)

H Q 20は「流行に流されるのが嫌いで…」とはっきりと流行に追随しない事を問うた設問であるが、全体で54.3%の者が流行に流されることを良しとしない。反面H Q 25では「流行を追うつもりはないのに何故か追ってしまっている」という者がやはり53.8%を占めて対象的な結果となっている。これらの両設問における関連度の強い組合せ変数について見ても、H Q 20がY G性格特性のN因子や食行動のE Q 27、E Q 23といった項目が選択され、被服行動項目では7番目にY G性格テストのN因子と結びついてH Q 06（女性の目への意識）が選択されているのに対し、H Q 25についてはH Q 27の「有名ブランドの服を着たいか」とH Q 18の「今日どんな服を着ようかと考えるのが楽しい」の組合せが最適変数の組合せとして選

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

択されている。これらを比較して考えるに、流行に流されまいとする積極的な意志の強さの度合いが、最適変数の選択に大きく影響しているものと考えられる。

次にH Q25を着目変数とした場合の最適変数の組合せであるH Q27とH Q18の分割表により詳しく検討する（表22）

表22 流行意識に関する最適変数分割表 n=196 ()内は比率(%)を示す。

説 明 変 数		着 目 変 数			計
有名ブランド を着てみたい	どんな服を着よう かが楽しい	流行を追うつもりはないのについて			
		思う	思わない	わからない	
思 う	思う	41(20.9)	14 (7.1)	9 (4.6)	64(32.6)
	思わない	21(10.7)	13 (6.6)	9 (4.6)	43(21.9)
	わからない	19 (9.7)	0 (0)	4 (2.0)	23(11.7)
思 わ ない	思う	10 (5.1)	8 (4.1)	1 (0.5)	19 (9.7)
	思わない	3 (1.5)	7 (3.6)	1 (0.5)	11 (5.6)
	わからない	1 (0.5)	3 (1.5)	1 (0.5)	5 (2.6)
わ か ら な い	思う	3 (1.5)	4 (2.0)	1 (0.5)	8 (4.1)
	思わない	8 (4.1)	3 (1.5)	5 (2.6)	16 (8.2)
	わからない	0 (0)	0 (0)	7 (3.6)	7 (3.6)
計		106(54.1)	52(26.5)	38(19.4)	196

「流行を追うつもりはないのに」について「流行に乗せられている」者で「有名ブランドも着たい」し、「どんな服を着ようかと考えるのが楽しい」と考えている者が全体の比率では20.9%と最も多く、次いで「有名ブランドは着たいが、どんな服を着るかには関心を示さなかった」者が10.7%と続く。これに対して、流行に流されていないと意志表示した者で「有名ブランドを着てみたいし、どんな服を着るかを考えるのが楽しい」者は全体の比率で7.1%、さらに流行にも流されず、有名ブランドにも関心がなく、どんな服を着るかにも関心のない者も全体で6.6%であり少数派である。

これらの結果から、流行が十分に考慮されている有名ブランド商品への関心と流行を追うつもりはないがについて、ファッション誌やメディアの影響から流行を追う結果になると言う学生像が浮んで来るようである。

4・5 被服素材に関する知識

被服の素材についての項目としては、原項目のH Q08（服を購入する場合、素材が天然繊維・綿・麻・絹・毛一の服を主に選んでいると思いますか）が該当する。

H Q08を着目変数とした場合のA I Cによる最適説明変数の組合せを表23に、その分割表を表24にしめす。

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

表23

(説明変数)			カテゴリ-数	AIC値	AICの差	
1	EQ18#33	EQ26#36	EQ04#29	8	-17.94	0.0
2	EQ18#33	EQ26#36		4	-14.97	2.97
3	EQ18#33	EQ26#36	EQ23#34	8	-8.60	6.37
4	EQ18#33	EQ26#36	EQ15#30	8	-7.82	0.78
5	HQ25#19			3	-7.75	0.07
6	EQ18#33	EQ26#36	EQ27#37	8	-7.29	0.45
7	EQ18#33			2	-6.47	0.82
8	YG@I#54			3	-5.37	1.10
9	HQ18#14			3	-4.95	0.42
10	HQ25#19	EQ18#33		6	-4.94	0.01
11	HQ25#19	EQ04#29		6	-4.89	0.05
12	EQ16#31			2	-2.67	2.21
13	HQ25#19	EQ16#31		6	-2.60	0.08
14	HQ25#19	EQ32#39		6	-2.56	0.04
15	EQ26#36	EQ04#29		4	-2.48	0.08
16	HQ25#19	EQ39#43		6	-2.35	0.13
17	EQ18#33	EQ26#36	EQ24#35	8	-2.04	0.32
18	EQ32#39			2	-1.87	0.16
19	EQ18#33	EQ26#36	EQ16#31	8	-1.78	0.10
20	EQ18#33	EQ26#36	EQ32#39	8	-1.77	0.01
21	HQ25#19	EQ27#37		6	-1.68	0.09
22	HQ25#19	YG@I#54		9	-1.36	0.32
23	HQ25#19	YG@G#49		9	-1.27	0.09
24	HQ25#19	EQ23#34		6	-1.19	0.08
25	EQ18#33	EQ26#36	EQ39#43	8	-1.17	0.02
26	HQ25#19	YG@C0#51		9	-0.96	0.21
27	HQ03#2			3	-0.78	0.19
28	EQ26#36			2	-0.75	0.02
29	EQ18#33	EQ26#36	EQ36#40	8	-0.75	0.01
30	HQ25#19	EQ26#36		6	-0.72	0.02
31	EQ18#33	EQ26#36	EQ37#41	8	-0.65	0.07
32	EQ18#33	EQ26#36	EQ17#32	8	-0.51	0.14
33	HQ25#19	EQ03#28		6	-0.46	0.05
34	EQ38#42			2	-0.30	0.16
35	HQ25#19	YG@AG#50		9	-0.05	0.25

以下省略

表24

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):HQ08#6 X(2):EQ18#33 X(3):EQ26#36 X(4):EQ04#29

X X X
- - -
2 3 4
- - -

RESPONSE VARIABLE

1 1 1
1 1 2
1 2 1
1 2 2
2 1 1
2 1 2
2 2 1
2 2 2

X(1)	1	2	3
2	4	2	8
7	1	0	8
2	18	0	20
0	5	2	7
13	13	5	31
4	2	8	14
36	26	15	77
9	17	5	31
	73	86	37 196

1 1 1
1 1 2
1 2 1
1 2 2
2 1 1
2 1 2
2 2 1
2 2 2

X(1)	1	2	3
25.0	50.0	25.0	100.0
87.5	12.5	0.0	100.0
10.0	90.0	0.0	100.0
0.0	71.4	28.6	100.0
41.9	41.9	16.1	100.0
28.6	14.3	57.1	100.0
46.8	33.8	19.5	100.0
29.0	54.8	16.1	100.0
37.2	43.9	18.9	100.0

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

この着目変数項目に対しての最適の組合せ（表23）は、E Q18 * E Q26 * E Q04の3変数の組合せ（A I C = -17.94）であり、次いでE Q18 * E Q26と続き、4位まではE Q18をキーとする組合せであるが、5位にH Q25、8位にY G特性のIが取り上げられている。

表24を検討すれば、被服購入時に素材として天然繊維を選ばない者（43.9%）が選ぶ者（37.2%）よりも全体の比率としては多い。しかし、細かく見れば、天然繊維を選ぶ者も選ばない者も体にぴったりと合う服が好きでなく、食事時間が人より長くはなく、太りすぎるのが恐い者が77人（39.3%）と圧倒的多数を占めているが、その内天然繊維を選ぶ者（46.8%）の方が選ばない者（33.8%）よりも多く、逆転した結果となっている。

4・6 被服の購買意識

新しい服を購入する場合の意識についての項目としては、原項目のH Q21（新しい服を買う時には気にいったらすぐに買いますか）が該当する。

H Q21を着目変数とした場合の最適組合せのA I C値表25に、その分割表を表26に示した。

表25

(説明変数)		カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	YG@G#49	3	-7.85	0.0
2	YG@I#54	3	-5.68	2.17
3	YG@G#49 EQ04#29	6	-3.90	1.77
4	YG@G#49 EQ18#33	6	-3.62	0.29
5	YG@G#49 EQ15#30	6	-3.12	0.50
6	YG@G#49 EQ24#35	6	-3.12	0.00
7	YG@G#49 EQ26#36	6	-2.98	0.13
8	YG@G#49 YG@A#46	9	-2.77	0.21
9	YG@G#49 EQ16#31	6	-2.04	0.74
10	HQ14#11	3	-1.86	0.18
11	YG@G#49 EQ39#43	6	-1.81	0.04
12	HQ18#14	3	-1.47	0.34
13	HQ27#21	3	-1.37	0.10
14	EQ24#35	2	-0.99	0.39
15	HQ20#16	3	-0.73	0.26
16	YG@A#46	3	-0.49	0.23
17	EQ23#34	2	-0.48	0.02
18	EQ39#43	2	-0.36	0.12
19	EQ15#30	2	-0.28	0.08
20	YG@G#49 EQ40#44	6	-0.17	0.11

以下省略

表25より、H Q21に対する最適の組合せの変数はY G@Gであり（A I C = -7.85）、次にY G@I、Y G@G * E Q04となり、Y G特性のGやI、AがH Q21と関連のある項目となっている。

分割表（表26）によれば、Y G特性のG（一般的活動性）の普通の者で新しい服を買う時に気に入ればすぐに買う者が全体の39.2%に対して、すぐに買わない賢明な者も18.4%いることがわかった。

表26

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):HQ21#17 X(2):YG@G#49

X					
-					
2					
-					
		RESPONSE VARIABLE			

	X(1)	1	2	3	

1		21	22	2	45
2		67	36	12	115
3		17	8	11	36

TOTAL		105	66	25	196

4・7 被服に対する全般的な関心度

原項目のHQ19（外出する時に着る服が無くて外出がいやになることがありますか）がこれに該当する。

表27は、HQ19を着目変数とした場合の最適組合せのAIC値表であり、その分割表が表28である。

表27

(説明変数)			カテゴリー数	AIC値	AICの差
1	HQ03#2		3	-11.40	0.0
2	HQ03#2	EQ24#35	6	-10.47	0.93
3	YG@G#49		3	-8.67	1.80
4	EQ24#35		2	-7.75	0.92
5	HQ25#19		3	-7.37	0.38
6	HQ03#2	EQ18#33	6	-6.88	0.50
7	HQ18#14		3	-5.98	0.90
8	HQ03#2	EQ04#29	6	-5.42	0.55
9	HQ03#2	HQ18#14	9	-4.26	1.17
10	EQ37#41		2	-4.06	0.20
11	HQ03#2	HQ25#19	9	-3.81	0.25
12	EQ24#35	EQ36#40	4	-3.71	0.10
13	HQ03#2	EQ27#37	6	-3.68	0.03
14	HQ03#2	EQ37#41	6	-3.47	0.21
15	YG@C0#51		3	-3.42	0.05
16	HQ14#11		3	-3.21	0.22
17	HQ03#2	HQ33#25	9	-3.18	0.03
18	YG@S#45		3	-2.15	1.03
19	HQ03#2	EQ16#31	6	-2.14	0.01
20	HQ03#2	EQ23#34	6	-1.91	0.23
21	HQ03#2	EQ15#30	6	-1.72	0.19
22	HQ03#2	HQ12#10	9	-1.38	0.34
23	EQ04#29		2	-1.34	0.04
24	HQ03#2	EQ32#39	6	-1.12	0.22
25	YG@C#55		3	-1.04	0.08
26	HQ03#2	EQ36#40	6	-0.97	0.06
27	HQ03#2	EQ38#42	6	-0.87	0.10
28	HQ03#2	YG@R#48	9	-0.68	0.19
29	HQ03#2	EQ30#38	6	-0.37	0.32
30	HQ27#21		3	-0.19	0.17
31	HQ03#2	EQ03#28	6	-0.05	0.14

以下省略

女子学生の被服行動に影響を及ぼす性格と食行動における諸要因についての検討

表28

CONTINGENCY TABLE WITH THE OPTIMAL COMBINATION OF EXPLANATORY VARIABLES

X(1):HQ19#15 X(2):HQ03#2

X				
-				
2	RESPONSE VARIABLE			
-				
	X(1)	1	2	3

1		56	22	1 79
2		39	10	5 54
3		42	8	13 63

TOTAL		137	40	19 196

	X(1)	1	2	3

1		70.9	27.8	1.3 100.0
2		72.2	18.5	9.3 100.0
3		66.7	12.7	20.6 100.0

TOTAL		69.9	20.4	9.7 100.0

HQ19に対して、最適の組合せの変数はHQ03（A I C = -11.40）であり（4・2・1の場合と同様）、HQ03 * EQ24、YG@Gと続いている（表27）。

その分割表（表28）から、外出時に着る服が無くて外出がいやになる者で、個性的な服がよいと思う者の組合せが全体で28.6%であるのに対して、個性的な服がよいと思わない者は19.9%であることが読みとれる。

5 おわりに

A I C統計量を用いた多次元分割表分析による調査データ解析を軸として、被服行動を左右する性格（YG性格特性）および食行動の諸要因について検討した結果、前報⁵⁾のカイ2乗検定法では解明できなかった若年層における被服行動の詳細について種々把握できたことは、我々にとって大いなる喜びである。

これからも、被服行動に表われる諸現象の原因を追求するために、さらに研究を続けたいと願っている。

謝 辞

本研究の調査データ分析に当り、終始御懇切な御助言を賜りました京都大学大型計算機センター高井孝之氏に深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。

大手前女子短期大学・大手前栄養文化学院・大手前ビジネス学院「研究集録」第12号（1992年）

文 献

- 1) 堀川 諭：食行動と身体イメージ、大手前女子大学論集、25(1991).
- 2) 「京都の女子高1200人調査」：朝日新聞(夕刊)、8月22日(1992).
- 3) 笹山益子・堀川 諭・青海邦子：本学学生の被服行動とY G性格特性との関連性について、大手前女子短大研究集録、11(1991).
- 4) Katsura,K. and Sakamoto,Y. : CATDAP, Computer Science Monographs, No.14. The Institute of Statistical Mathematics, Tokyo(1980).
- 5) 高井孝之：CATDAP概説、京都大学大型計算機センター広報、Vol.22、No.4(1989).
- 6) SAS USER'S GUIDE : Basic 1982 Edition, SAS Institute Inc. (1982).
- 7) 笹山益子・青海邦子：性格調査との関連からみた本学学生の被服に対する意識と行動について（第2報）～統計手法赤池情報量基準による分析～、大手前女子短大研究集録、9(1989) pp.250-252.
- 8) 赤池弘次：情報量基準 AICとは何か、数理科学、No. 153(1976)pp.5-11.
- 9) 坂元慶行：カテゴリカルデータにおける変数選択プログラム—CATDAPを中心に—、統計数理研究所彙報、第28巻第1号(1981) pp.135-155.
- 10) 坂元慶行：カテゴリカルデータの解析、数理科学、No.213(1981) pp.24-29.
- 11) 坂元慶行・石黒真木夫・北川源四郎：情報量統計学、共立出版(1983).
- 12) 坂元慶行：カテゴリカルデータのモデル分析、共立出版(1985).
- 13) 笹山・堀川・青海：前掲書(1991).
- 14) 阿部幸子ほか：衣生活論、同文書院(1990).
- 15) 笹山・堀川・青海：前掲書(1991).